

序

発刊のことば



新玉川線の記録を遺そうということになりました。明治40年に開通して以来、昭和44年に撤去するまでの60余年にわたり、沿線の皆様に親しんでいただいた“玉電”にたいする愛惜の念も、いまだに強いものがあります。

また、一方、免許申請以来相当の歳月を費やして作り上げた新玉川線にも幾多の難関、迂余曲折がありました。

これらの経緯を建設工事の全貌とあわせて、将来のために整理、保存しようとするもので、ある意味では東急電鉄の側面史であり、またある意味では社会史の一断片ともいえるかと思えます。

新玉川線は昭和52年4月の開業以来、2年余を経過して昭和54年8月には、田園都市線、半蔵門線との3線直通運転も実現し、ようやく本来の機能を発揮しうるようになりました。

これも全社一丸となって建設にとり組んだことのみならず関係諸官庁、地元の皆様、その他各位のご指導と、ご協力の賜ものにほかなりません。

ここに新玉川線建設史を発行するにあたり、あらためて感謝する次第です。

昭和55年8月12日

東京急行電鉄株式会社

取締役社長

五島 早